



「2019 日化協 R C 委員会活動報告会/RC 賞受賞講演会」

..... 次 第

2019年6月13日(木) 13:00~17:00

場 所：月島社会教育会館

住 所：〒104-0052 東京都中央区月島4丁目1番1号（月島区民センター4階）

電 話：03-3531-6367 URL：<https://chuo-shakyo.shoppro.co.jp/tsukishima#accessArea>

12:30	開場
13:00	開会挨拶 （一社）日本化学工業協会 常務理事 永松 茂樹
13:10	審査委員長講評 東京大学 工学系研究科 化学システム工学専攻 教授 工学博士 平尾 雅彦 氏
13:25	レスポンシブル・ケア（RC）賞 受賞講演 RC大賞 花王株式会社 RC審査員特別賞 三菱ガス化学株式会社 RC審査員特別賞 住友化学株式会社 RC優秀賞 JSR株式会社 RC優秀賞 徳山積水工業株式会社 RC優秀賞 三菱ケミカル株式会社
15:10	<休憩>
15:30	講演：「安全においてヒューマンファクターをどう捉えるか」 東日本旅客鉄道株式会社 JR東日本研究開発センター 副所長 博士（心理学） 楠神 健 氏
17:00	閉 会

注）各講演のテーマ・概要につきましては、次頁以降をご参照下さい。

>>>> 講演内容紹介 <<<<

[1] 日化協レスポンシブル・ケア賞 受賞講演

レスポンシブル・ケア賞は、レスポンシブル・ケア（RC）活動に携わっている方々の活動意欲の向上と活動の活性化とを目指して、2006年に創設されました。そして2013年度の第8回からは、安全表彰・技術賞と並ぶ日化協3賞の一つに昇格させ、現在に至っております。

具体的には、RCの6コード（保安防災、労働安全衛生、環境保全、コミュニケーション、化学品・製品安全、物流安全）に関する活動の普及や推進に優れた功績を残した 或いは 貢献をした事業所・部門・グループまたは個人を表彰しています。

2018年度は、以下の6件をRC大賞、RC審査員特別賞、RC優秀賞として表彰しました。

【日化協RC大賞】 1件

花王株式会社 SCM 部門

テーマ： プロセス安全評価による防災活動

活動： 系外に漏れ出した化学物質の自然発火 及び 反応器での暴走反応について、科学的手法を用いた独自の「プロセス安全評価手法」を確立。国内工場に展開し、これらのトラブルを大幅に削減した。

活動の実効を上げるため、評価手法の確立では現場での使いやすさに配慮。また、全社横断的な組織を構築して活動を展開するとともに、確立した手法を着実に運用するためのシステム作りや教育にも力を入れている。

【日化協RC審査員特別賞】 2件

三菱ガス化学株式会社 新潟工場 第一製造部 第一化成課

テーマ： プラントの外部腐食対策

活動： 日本海からの塩分飛来によって引き起こされる配管の保温材下腐食（CUI）は、外部点検による発見が難しく、異常現象を引き起こす原因となってきた。そこで配管の CUI 懸念箇所を24パターンに纏め、各腐食の発生メカニズムを調査。それを基に保温施工基準の見直しを行うことで、CUI由来の漏洩を撲滅することに成功している。製造現場の地道な小集団活動をボトムアップによって展開し、関係部署を巻き込み、成果に結び付けている。

住友化学株式会社 レスポンシブルケア部（気候変動対応）

テーマ： 持続可能な低炭素社会への新たな挑戦

活動： 低炭素社会実現に向けて、事業所の省エネを進め、原単位を大幅に削減した。また、パリ協定の2℃目標達成に貢献可能な製品や技術を推進するため、それらを“Sumika Sustainable Solutions (SSS)”として認定する制度をスタートさせ、更にTCFD*提言の支持、SBT*認定取得などを行ってきた。化学産業が社会にとって本当に必要な産業であることを積極的に発信することを可能にする活動である。

* TCFD： Task Force on Climate-related Financial Disclosures
(気候関連財務情報開示タスクフォース)

* SBT： Science Based Targets (科学と整合した目標設定)

【日化協RC優秀賞】 3件

JSR株式会社 千葉工場

テーマ： JSR(株)千葉工場の安全文化の醸成活動

活 動： ベテラン社員が労災・ヒヤリハットの体験を伝える「語り部活動」や最新の映像技術を使った「VR* 体感教育」を行い、従業員の安全感性を醸成。また安全文化・基盤の強化を狙い、第三者による保安力評価を受審。更に、災害発生時の初動対応を迅速化するために「災害情報支援ソフト」を作成するなど、さまざまな手法を用いて多面的に安全文化の構築を図った。

* VR： Virtual Reality (バーチャル・リアリティ)

徳山積水工業株式会社

テーマ： 徳山積水工業(株)における自然保護活動

活 動： 地域に密着した環境保全活動として、2000年より周南市から借り受けた市有林(2,500m²)で「積水の森整備活動」を、2009年から「周南市西緑地公園整備活動」を、更に2014年からは「栄谷市有林整備作業(18,200m²)」を実施。18年以上にわたり行政や地域社会と連携して自然保護活動を展開し「地域社会への貢献」も果たしてきた。

三菱ケミカル株式会社 茨城事業所 環境安全部

テーマ： 危険予知力向上に向けた取り組みと基本操作の定着

活 動： 過去の災害を解析し、その主因は危険予知の不足、及び基本行動や基本操作の不徹底によるもの、との結論を得た。そこで、基本操作集の作成、4RKY* 教育を通じた危険予知活動やKY*大会の実施、HH*活動の活性化などに取り組み、基本の徹底、危険に対する感性のアップなどを図っている。活動を進めるにあたり「仕組みを使う人・心」に着目し、基本的な安全活動に「志、共感、達成感、やりがい」を織り込んでおり、新たな視点を取り入れた活動となっている。

* 4RKY： 4ラウンド 危険予知、* KY： 危険予知、* HH： ヒヤリハット

[2] 講演：「安全においてヒューマンファクターをどう捉えるか」

講演概要：

東日本旅客鉄道(株)は、現在第7期の安全中期計画を、「一人ひとりの安全行動の進化と変革」「安全マネジメントの進化と変革」「新たな技術を積極的に活用した安全設備の整備」を三本柱として、推進している。前半ではその概要を説明する。

後半では、化学業界と共通する「異常時のヒューマンエラー防止」について、鉄道における典型的な異常時エラーのタイプを説明するとともに、東日本旅客鉄道(株)が重視する「危ないと思ったら列車を止める！」を例に、その推進方法を紹介する。

講師紹介： 楠神 健 (くすかみ けん) 氏

博士 (心理学)

東日本旅客鉄道株式会社 JR 東日本研究開発センター 副所長 (ヒューマンファクター)

1982年 東京大学文学部心理学科卒業、国鉄入社

1984年 国鉄 鉄道労働科学研究所 労働心理研究室 研究員

1987年 国鉄民営分割化、(財)鉄道総合技術研究所へ

1993年 (財)鉄道総合技術研究所 人間工学研究室 主任研究員

1997年 東日本旅客鉄道株式会社 安全研究所 主任研究員 (安全心理)

2002年 同 JR 東日本研究開発センター 安全研究所 主任研究員 (安全心理)

2005年 同 JR 東日本研究開発センター 安全研究所 次長 (ヒューマンファクター)

2008年 同 JR 東日本研究開発センター 安全研究所 所長

2013年～現職

専門： 産業・組織心理学、人間工学、ヒューマンエラー、事故分析、安全管理、安全教育・人材育成